

Q 学習指導要領の改訂で、 学校の授業は どう変わりますか？

Fukui Teachers' Union
学校を知る、
教育を知る。

〔回答者〕
福井県教職員組合
執行委員長
野坂訓由さん

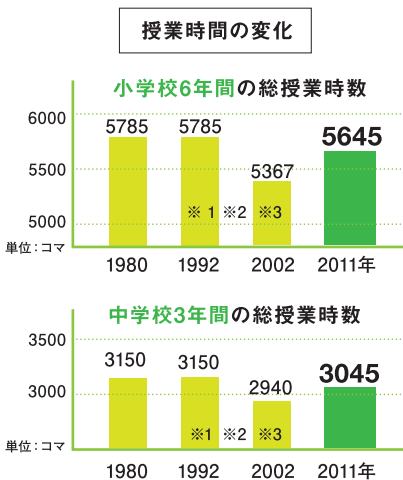


A 授業時間数が増え、学習内容が充実。
確かな学力と同時に“生きる力”を育む授業が行われます。

学習時間が増え 内容も充実

学習指導要領は全国どこで教育を受けても一定の水準を保てるよう、文部科学省が定めた基準です。約10年ごとに改訂が行われており、平成23(2011)年度から小学校、平成24(2012)年度には中学校でも、新指導要領での教育が始まりました。

今回の改訂では授業時間が大幅に増え、学習範囲も広がりました。ポイントとしては、**物事を考え、判断し、表現する力の育成、伝統文化への理解、道徳教育、体験活動**などの充実を図っています。



※1 92年9月より月1回土曜休み
※2 95年7月より月2回土曜休み
※3 02年4月より学校週5日制

改訂に伴う 学校側の対応

学習指導要領の改訂に、教育現場は学校行事を厳選して授業時間を確保するな

ど、きめ細かく対応しています。また改訂で**特定の学年が学習面で不利にならないよう、2~3年前から段階的に前倒しで教えています。**

小学校では新しい内容についての研修を行ったり、中学校の教科別の勉強会では、変更点を研究して指導の指針をまとめています。多くの先生方はこれをアレンジし、教室での反応を見ながら修正を加えています。「深く考えさせるための問いかけは?」「よりわかりやすい説明は?」「お互いが意見を言いやすい学習形態は?」など、考えるとキリがありませんが、これこそが教師の仕事です。中学体育で必修となった武道やダンスについても、安全に、より楽しく生徒たちが取り組めるよう、教師は研修会や手引書で勉強を重ねています。**増えた内容を時間を増やして授業するだけでなく、その準備の過程から“教える”は始まっているのです。**



新しい教科書は、大判になりページ数も増加

授業の準備にこそ 時間をかけたい

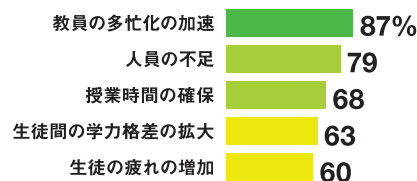
こうした教材の研究には、どれだけ時間をかけても十分ということはありません。しかし現場では部活や生徒指導に加え、出張や提出する文書・アンケート等の仕事が増

えていて、**授業の準備時間を確保するために先生方は非常に苦勞しています。**指導要領は教育の機会均等と水準を保つ政府の努力で、これに沿った授業をするのは教師の仕事ですが、「ゆとり教育」「学力向上」などその時々**の世論や政治情勢で方向性が変わり、現場が翻弄される面も否めません。**

私たちが子どもに身につけさせたい「学力」とは、「学ぼうとする力(学習意欲)」「学ぼう力(学習方法)」「学んだ力(学習結果)」で、教師の役割はこれをバランスよく伸ばしていくこと。大切な子どもたちとの時間を十分に確保できるよう、福井県教職員組合は**独自の教員の配置増などを県や県教委へ要望し、先生方をバックアップしています。**

中学教員が新学習指導要領の完全実施で不安なこと

※「とても」と「やや」を合わせたもの
(ベネッセ教育研究開発センター調べ)



これも!
県教組



福井の小学生にはおなじみの「夏休みの友」「冬休みの友」、実は県教職員組合の教育文化庁が中心となって作っています。時代に対応し、地域に密着した内容となるよう、県内現場の先生方が子どもたちの実情を考えながら作成しています。